

助成金を活用した老舗酒蔵と地域との連携集客事業支援

協和酒造株式会社 (愛媛県)

明治20年創業。昔ながらの「槽しぼり」「袋しぼり」にこだわった製法により地酒「初雪杯」の酒造り

1. 相談のきっかけ

・コーディネーターが当社のお酒を愛飲していることから当社の後継予定者と交流があり、老朽化した酒蔵棟の保存改修の是非について相談があったのが支援のきっかけ。



2. 課題整理・分析

・杜氏制をやめて家族での酒造りに移行したが、作業効率の悪い旧来の大型生産設備の集約化が必要。
・同時に老朽化して使わない酒蔵棟の再生活用、および改修資金調達が課題。



3. 解決策の提案

・雨漏りなど不具合が発生している生産設備の集約化を先行して自己資金で実施する。
・歴史的文化的価値のある酒蔵棟は愛媛県の助成金を活用して改装し、地域と連携した集客事業の拠点とする。



4. 成果

- ・急を要する生産設備の集約化を先行して実施するため、老朽化した酒蔵棟の保存改修について断念するかどうか大きな悩みであった。同時に当社がある砥部町は砥部焼を観光の柱とした集客を目指しているが、来訪観光客の休憩、昼食場所が少ないという地域の課題も顕在化していた。
- ・上記の課題を同時に解決する手段として県の助成金制度である観光集客力向上支援事業への応募を提案。(助成限度額500万円 補助率1/2)
- ・酒蔵棟を保存改修し、地域の集客拠点として整備して来訪観光客を誘致するシナリオを作り、元リクルートじゃらんの専門家をアドバイザーとして紹介。よろずとチームを組んで新事業展開の計画作成の支援を実施
- ・支援チームによる数回の作戦会議を経て、また地域の関係者を巻き込んで事業計画を策定。上記助成金事業へ応募したところ見事に事業採択され、近々拠点整備工事開始予定。
- ・老朽化した酒蔵棟が地域の交流拠点として生き返ることになり、よろずの助言に感謝された。

